

関連項目：教育活動プラン④

## 人とつながる機会と賞賛する場の設定

### 目的

本校の児童には、人とのかわりに消極的であったり自信が持てず学習や生活に意欲を持って取り組みにくかったりする面が見られます。そこで、人とつながる機会や活動を工夫したり、児童の伸びや良さを賞賛する場を設定したり、人とつながる喜びを味わわせ、自己存在感を高めていきたいと考えます。

### 内容

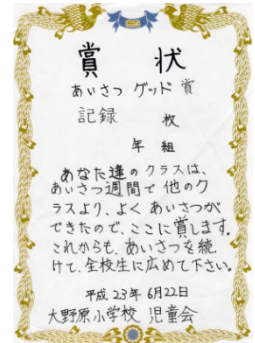
#### 1 「あいさつ・ありがとう」で人とつながる！

##### ● 児童会より「あいさつグッド賞」を贈呈する。

- ① 学期の始めの月は、「あいさつ・返事」の大切さについて各自がめあてを決めて取り組むことを呼びかける。
- ② 生活目標から具体的な目標を学級で決め、実践をする。
- ③ めあてが達成できた学級は、廊下に掲示して賞賛する。
- ④ 代表委員会で良くなったことや反省点を持ち寄り、あいさつのよくできている学級を決定する。
- ⑤ 全校集会で「あいさつグッド賞」の表彰をする。

※生活安全委員会の日常活動として、毎週木曜日に玄関に立ってあいさつをする。

※学期始めには、「あいさつ」強化週間として、特に意識付けて取り組んでいる。



##### ● 「ありがとうカード」で互いの良さを認め合う。

友だちからしてもらったことで、うれしかったことやみんなのためにがんばったことなどを、「ありがとうカード」に書き、友だち掲示板に貼っていく活動に年間を通して取り組んだ。この活動を通して、児童は、友だちの良いところを見つけようと意識し、新たに良さを発見することができる。1年間でどの子にも「ありがとうカード」が貼れるようにしている。カードを貼ってもらった児童は、自分の良さに気づき、自己存在感や自尊感情を高める機会となっている。

#### 2 清掃やボランティア活動を工夫し、「役立ち感」を味わわせる！

##### ● 「心みがき清掃」の推進

清掃の時間を3つの心みがきの時間と意識づけ、生徒指導部が中心となって、全校生が取り組んだ。がまんする心（だまって静かに）見つけ、判断する心（汚れている所を見つけて）・協力する心（友だちと協力して）を徹底して指導している。校長先生や美化担当教師、美化委員会が清掃の仕方の良い所を毎日、放送で紹介し賞賛している。



##### ● 校内落ち葉拾い大会を企画、がんばった学級に感謝状を渡す。

ふだんは、美化委員会が校門付近のボランティア清掃に取り組んでいるが、秋には全校生に呼びかけ、「校内落ち葉拾い大会」を実施した。朝の始業前10分間でどれだけ落ち葉が集められるか、学級や学年ごとに1週間競争し、ボランティア活動への意欲化を図った。お昼の放送で結果を発表し、感謝状を渡した。



### 成果

このような取り組みを通して、教師が児童を褒めたり、評価したりすることを意識した機会が増え、進んであいさつする児童（児童アンケートで、「できた」と答えた児童 92.3%）や黙って清掃に取り組む児童が増えてきました。そして、人とつながる喜びや誰かにために役立ったという「役立ち感」（アンケートで、「役立った」と答えた児童 88.7%）や自己存在感を少しずつ高めることができました。